

2週間のアメリカでのステイを振り返ると、「いい経験になった」という一言が全てを物語る気がする。ここでは、何が「いい経験」だったのかということを書いてみようと思う。

まず、私にとっては本当に初物尽くしの日々であった。アメリカに初上陸のみならず、飛行機に乗るところから初体験だったのだ。そして初めてで、かつ大きな壁として立ち上がったのが、言語の問題である。大量の英語話者に囲まれて暮らすことが初めてなので、英語を使うことに慣れておらず、コミュニケーションがスムーズに取れないというシチュエーションに何度も出会った。言われたことは分かるし、日本語では言いたいことも思い浮かんでいるのに、それを英語で話すことができなかった。己の英語の語彙のなさを痛感させられるばかりだった。また、話しかけられる言葉のすべてが英語であったので、常に気を張っておかなければならず、日本語で生活するよりも疲れを感じた。さらに、言っていることがうまく聞き取れないということもしばしばあった。これらはやはり、勉強をして語彙を増やし、あとは慣れるしかないのかなと思う。しかし、日本には慣れる機会も限られている。その機会をいかにうまく手に入れ、うまく活用するかが焦点となっていくと思う。

また、異文化をここまで肌で体感するのも初めての体験であった。その中で、日本の良さや問題点を見つけることができた。まず日本の良さは、「一を聞いて十を知る」ということだ。日本では、何か頼みごとをしたら、その言葉の裏に隠された意図や事情も予測して、言わなくても何か別のこともしてくれたり、「〇〇もしておこうか？」などと尋ねてくれたりする。しかし、アメリカではそのようなことは全くといっていいほどなかった。やってほしいことは、しっかり言わなければならない。「このくらい推し量ってよ」が通用しないのだということが分かった。また、食べ物を大事にするのも日本人がアメリカ人と異なる点だと思った。私はホームステイ先で、ホストファミリーが夕飯の残りを躊躇なく捨てているのを何度か目にした。冷蔵庫で保存して何が何でも食べるというのが当たり前だと思っている自分にとってはショッキングな光景だった。しかし、これも異文化なのであろう。一方で、日本の問題点は、「積極性が足りない」ということだ。例えば、学校の授業でもその違いが顕著に表れている。アメリカの生徒たちは先生に様々な質問をぶつけ、個々の疑問を解消していく。そうすることで理解が深まる上に、先生に対して「自分は先生の話を聞いています」というアピールにもつながるので、非常に良いことだと個人的には思う。日本人も、この姿勢を100%マネするべきというわけではないのだが、少なくとももっと積極的に、情報に対して貪欲になったほうが良いと思う。

今回の2週間の滞在では、日本ではできない体験や、個人での旅行や留学では実現できないような研修も数多くさせていただいた。次は、この貴重な経験をいかにほかのみんなにフィードバックしていけるかが自分たちの使命となるのだと思う。ちゃんと最後まで、先生方の期待にこたえられるよう全力を尽くしていきたい。

## “What I got in two weeks”（2週間で私が得たもの）

新田 瑞穂

私は約2週間、呉三津田高校の姉妹校であるコロナデルマーハイスクール（以下、CdM）に短期留学をさせていただいた。私は今までに何度かアメリカを訪れたことはあったが、現地の高校に通い、同年代の子達が常に周りにいるという環境は初めてだった。

私たちはほぼ毎日 CdM に通い、それぞれのホストシスター・ブラザーと一緒に授業を受けた。登校初日の私たちのプレゼンテーションを、生徒たちは興味津々で聞いてくれた。暖かい歓迎を嬉しく思う一方、授業内容を理解するのはとても難しく、自分の英語力がいかに不足しているかを何度も痛感させられた。私たちは企業訪問や研修に参加する機会もたくさんいただいた。マツダや富士通の企業訪問では海外の日本企業の努力と工夫について、全米日系人博物館や日本領事館への訪問ではかつての日系移民たちの歴史と努力について学んだ。UCI への訪問では、アメリカの大学への長期留学の夢を膨らませると同時に、日本の英語教育の課題点を見つけることができた。また、カリフォルニア科学博物館では、本物のエンデバーを見ることができ、科学技術のすごさを改めて感じた。

私は2つのホストファミリーのところにお世話になった。どちらもとても親切にしてくださり、たくさん経験を見せてくれた。ビーチやモールに行ったり、一緒にお菓子を作ったり、時には内容の深い話をしたりもした。ゲストとしてもてなすとともに、家族の一員として受け入れてくれていると感じることができ、とても嬉しい気持ちになった。

今回の短期留学において3人で決めた目標は、「異文化体験を通して日本を知る」だった。2週間という期間はとても短かったけれど、ずっと日本の中には気づくことのできない日本の良いところや課題点を見つけるとともに、今までのアメリカに対するイメージが大きく変わった。正直、この2週間で私は何度も惨めな気持ちになった。2つも学年が下のクラスの授業も満足に理解できないし、自分の気持ちや意見を十分に伝えることはできないし、周りの人がすごく立派で大人に見え、心が折れそうにもなった。しかし、仲間や先生、CdMの人たちなど、素敵な人たちの存在は、「みんなにできるのに私にできないわけではない」といつも私の励みになっていた。今自分がいる環境で自分の力を最大限に生かすことは難しいけれど、努力をしていれば周りの人が手を差し伸べてくれるということを学ぶことができた。

同じ目標を持った仲間と頼れる2人の先生と共に頑張った2週間は、とても貴重な時間になった。楽しいことばかりではなかったけれど、自分から色々なものにぶつかっていく勇気を育ててくれた。第1回目の留学生として CdM を訪問できたことを光栄に思うし、このパートナーシップがずっと続くことを心から願っている。そして、英語が好きな一部の生徒だけでなく全三津田生にもっと広い世界に触れられる機会が与えられるといいと思うし、私が身をもって体験してきたことを伝えることで興味を持つ人が増えてくれると嬉しい。今回の経験で出会った人たちとこれからも連絡を取り続けて、いつかもっと成長した自分で会いに行きたいと思っている。

## 二週間の研修を通して

厚朴 璃子

突然ですが、アメリカ、日本がどのような国か、どのような文化を持つ国々か説明できますか？意外とこれらの説明をするには抽象的で難しいはずですが。私は渡米前、研修に向けて準備をする際にこのようなことをよく考えました。やはり、うまく説明することはできませんでした。ところがこの研修を通して、日本については何かが見えてきました。また日本がどのような国か、というだけでなく私自身がどのような人間であるのか、ということも少しは理解できたと思います。

今回、私は初めてアメリカを訪れたのですが、テレビや本の中でしか見たことのない国にいるのか、と思うととても感動しました。ホームステイや **Corona del Mar** 高校での生活は、日本とは異なる生活を体験することができ、貴重な体験でした。特に **Corona del Mar** 高校で実際に授業を受けたことが私にとっては最も貴重な体験です。生徒が積極的に意見を述べたり、友達同士で考えを共有し合ったりする様子は日本の高校では見られない光景だったので新鮮でした。また、新しい物事に対して興味を持ち、知ろうとする様子も私にとっては新鮮でした。日系企業や博物館への訪問では、日本人や日本の技術がアメリカ、世界に受け入れられていることや、受け入れられるまでの歴史と努力を知ることができました。特に印象に残った経験は、**MAZDA** での研修です。アメリカで車を販売するために、アメリカの環境や人々、規則などを隅々まで調べ、それらに合った車を開発・研究するそうです。人々に運転する楽しさを伝えるために努力を惜しまない姿は、「勤勉」という言葉そのものでした。私は、日本人の「勤勉さ」は、日本人や日本の技術が世界に受け入れられる理由の1つだと思っています。この精神は日本人がこれから時代が変化しても大切にすべき精神だと思います。

私は冒頭で、2週間を通して日本がどのような国かが少し見えてきた、と述べました。これは、日本を離れてみないとわからないことだと思います。異なる文化を体験してみて、これは日本の方がいい、これはこの国の方がすごい、等々様々な気づきを通して日本はどんな国なのかが見えてきました。外から見てどんな国なのかを考えることで、違った視点から物事を考えられるようになるはずです。またこのように規模の大きいことだけでなく、自分自身のことを振り返るきっかけにもなります。実際、私はアメリカで2週間過ごして、私ってこんな人だったのか、と思うことが多々ありました。英語でコミュニケーションがとれなくてもどかしい思いや悔しい思いもしました。何においてもまだ知らないことの方が多のですが、このように少しでも何かを知ることができたという経験は、私にとって大きな進歩です。これからも、この経験を第一歩としてもっと広い世界を知っていけたらと思っています。